

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 311 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.05.26 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1191 部\*\*\*\*\*

### 【NEWS】

辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）が  
『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』の書評を書いて下さいました。

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 理不尽なことに抗う心を持った人間は蝦夷である 塩谷哲夫

<時代を見る眼> 「日の丸にヒビが入った」！？（その3） 松坂正次郎

<イベントのご案内>第3回「地域力フォーラム」（2011/06/11）

暮らしの原点を問い直す ～東日本大震災からの復興に向けて～

<編集後記> 立ち食いそば屋のある社会はレジリアンスな社会ではないか

<85歳からのメッセージ> 休載のお知らせ

---

<巻頭言> 理不尽なことに抗う心を持った人間は蝦夷である

---

私は福島県郡山市の出身である。3.11以後、自分のふるさと東北のことを考  
え続けている。机の傍らには東北のことを書いた本が次第に積み重なっていく  
のだが、先日、手にとったのは『東北ルネサンス』（赤坂憲雄編、小学館文庫、  
2007）であった。赤坂をホストとする7つの対談のなかから、高橋克彦との対談  
「蝦夷とはだれか」から読み始めた。

いつからか、どういうわけか、蝦夷の勇者アテルイのことがぼんやりと私の  
頭にあった。大和朝廷の征夷大將軍、坂上田村麻呂よりもそれと戦った「反逆  
者」に親近感があった。そこで、アテルイのことを書いた小説、高橋克彦の  
『火怨』を見つけて、読んで、そして、すっかり“はまった”。アテルイの戦  
いに胸躍らせ、蝦夷の子孫たちの将来、蝦夷地の平和を願って決意して敗北し  
た彼の死に涙した。高橋との対談から読もうと考えたのは、そんなわけがある。

『東北に暮らす者はすべて蝦夷である』という言葉が天啓のように浮かんだわけね。『ああそうか、蝦夷は血とか民族じゃなくて、これは東北という風土が拵えるものかもしれない』と」

「要するに、何かに抗う心を持っている者は蝦夷だと」

<彼の書く小説の主人公の出自がいわゆる蝦夷の民から> 「どんどん拡大して、いまや日本中に蝦夷の魂をみいだすようになっていきますけれどもね。つまりどこに住んでいようと、理不尽なことに抗う心を持った人間は蝦夷なんだ。蝦夷というのは、だから何かの正義みたいなものを内に秘めている人の代名詞としてこれからはつかってもいいんじゃないか」

そんな高橋の発言を読みながら、はたと私はひらめいた。そうだ！　いま、天災の大地震・大津波、そして犯罪的人災の原発「事故」に侵犯され、翻弄されながらも、復興に立ち上がり、また怒りを秘めて耐える戦いを続けている東北のひとびとは、みんな蝦夷なんだ！

赤坂は震災「復興構想会議」のメンバーである。東北をフィールドに「東北学」を構築しようとしてきた。東北の風土、東北人の心を知っている人間として、都会の風土に流されないような対応をしてくれるのではないか。そんな期待を抱いている。なお、同会議の顧問、梅原猛は仙台出身であり、東北に縄文・蝦夷文化を探る『日本の深層』を著わしている（1994年）。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<時代を見る眼> 「日の丸にヒビが入った」！？（その3）

---

小生のような“平民”から見ると、政治家（国会から市町村の議会まで）は党派の争いに熱心であるように見える。官僚や会社、団体の“重役”たちは、定年後の地位と報酬の確保に汲々としているように見える。その辺が一般国民には汚く見える。“神州清潔の氏”は平地にしか住めないのか。そこが不分明である。

指導層の方々が「想定外」などと嘯く（うそぶく）ことは許せない。「想定外」のことは知恵も眼も届かない不可抗の災難だから、手が出せないという逃げの姿勢にはほかなぬ。一般国民こそ「いい面の皮」である。「想定内」の事柄であったなら、誰も事態をあげつらうこともないし、国会議員、政党、そして政治家と言われる方々に対応してもら必要もなからう。

国内にはいくつもの原子力発電所を建設し、国民や企業に電力を供給してきたことの努力は買うが、その施設の建造者や政府の監視関係者さえ決定的な防災対応を進められず、結局は周辺住民と、そこからの避難住民の対応さえ遅々として進んでいない。東京電力をはじめ、その道の専門家さえ決定的対応策を持ち合わせていないことが、暴露された。彼らの右往左往には責任感がいかに希薄であったかが想像できる。ソ連のチェルノブイリ原発の事故から何も学ばなかったのか。

日本の国土周辺には太平洋、日本海という“豊饒の海”を持つ。原発依存一辺倒の頭でっかちの電力政策から、自然エネルギーに大転換する（国土に豊かな水資源、無尽の太陽光線、周辺海洋の波力や風力の活用に活路を開く）ことが、いま、求められていると思うが如何。日の丸のヒビ解消のカギもここにあるはずだ。

松坂正次郎

山崎農研会員 コラムニスト

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<イベントのご案内>第3回「地域力フォーラム」(2011/06/11)

暮らしの原点を問い直す ～東日本大震災からの復興に向けて～

---

このたびの大震災は、東日本太平洋沿岸の市町村に住む人たちの暮らしの根拠をすべて奪い去りました。そのうえ原発事故は、繁栄をもたらす高度なテクノロジーには危険が伴うものであることを改めて私たちに突きつけました。

第1回、第2回の「地域力フォーラム」においては、現代の日本の閉塞感を打開する鍵を“地域力”に求めた議論を展開しました。第3回となる今回は、大震災からの復興を念頭におきました。

私たちが築いてきた社会はどこで間違っていたのか、エネルギーを無限に費やして成長する社会に潜む脆弱性とは何か、日本人が祈り続けてきた“無事”な暮らしの復権はできるのか、次世代に安心な社会をバトンタッチするために私たちが負う責任とは何かなど、暮らしの原点を問い直すためのフォーラムにしたいと思います。

皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

日 時 2011年6月11日(土) 14:00~18:00 (開場 13:30)  
会 場 文京区民センター2階 2-A 会議室 (東京都文京区本郷 4-15-14)  
最寄駅: 地下鉄都営三田線・大江戸線春日駅 徒歩3分  
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/gmap/detail.php?id=1754>  
定 員 先着250人 (※要事前申込み)  
参加費 一般2000円、学生500円  
(※懇親会費は別途、一般2000円、学生1000円)

#### 内 容

14:10~14:50 基調講演 「暮らしの原点を問いなおす」 哲学者・内山節  
14:50~15:50 第1部「被災地は今」  
岩手県住田町長 多田欣一  
福島県飯館村・農家民宿「どうげ」 佐野ハツノ  
コーディネーター 農文協「季刊地域」編集長 甲斐良治  
15:50~16:50 第2部「都市と地方の関係」  
宇都宮大学農学部教授 守友裕一  
山形県金山町・暮らし考房 栗田和則  
岡山県・NPO法人かさおか島づくり海社 守屋基範  
コーディネーター 哲学者 内山節  
17:10~17:55 第3部「これからの暮らしへ」  
群馬県片品村・片品生活塾 桐山三智子  
新潟県・(財)山の暮らし再生機構 杉崎康太  
北海道・NPO法人ねおす 齋藤学  
コーディネーター NPO法人エコプラス事務局長 大前純一  
18:30~20:30 懇親会 (東北地方のお酒など提供予定)

主 催 農文協、かがり火発行委員会、三人委員会哲学塾ネットワーク

問合わせ先

〒107-8668 東京都港区赤坂 7-6-1 (社) 農山漁村文化協会

TEL 03-3585-1145 FAX 03-3585-6466

お申込みの際は、下の季刊地域サイトよりお願いします。

<http://kikanchiiki.net/contents/?p=764>

---

<編集後記> 立ち食いそば屋のある社会はレジリアンスな社会ではないか

---

東日本大震災の当日、電車が止まってしまったためにわたしは会社に泊まることにした。その翌朝、ようやく動き出した電車を使い継いで自宅へ向かったときのことである。

地下鉄に乗っていたのだが、いつも利用している路線が動き出したとの車内アナウンスがあり、わたしは王子駅で下車した。しかし、なかなか電車は来ないし、来ても満員で乗れない。そこで、まずは腹ごしらえをしようと決めて駅の周りをうろろろすることにした。

だが駅前のチェーン店は全滅だった。在庫は移動し続けるトラックの中しかないような業態なのだから無理もない。開いていたのは、個人営業の立ち食いそば屋だけであった。が、このそば屋の活気のあることといたら！次から次へと来る客に、店主とおかみさんはてんやわんや。「麺を追加するから電話して！」という声も聞こえてくる。きっと製麺所もご近所なのだろう。

その後しばらくして、キューバ農業評論家の吉田太郎さんのブログを読んだ。

キューバ有機農業ブログ レジリアンスのある社会を作ろう

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=3615172](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=3615172)

「レジリアンス」とは聞き慣れない言葉であるが、この記事によれば、「しなやかな強さ」であり、「防災力」にも通じるという。吉田さんがここで紹介されている枝廣淳子さん（環境ジャーナリスト）は、

長期的に自然エネルギーへ 短期的効率よりレジリアンス

<http://www.es-inc.jp/news/20110410AERA.pdf>

という記事も書かれている。

この枝廣さんの記事に、『レジリアンス＝弾力性』のある社会にすること」とあるが、立ち食いそば屋のある社会はレジリアンスな社会といえないだろうか。震災直後の混乱のなかでも食を提供できたのは、つくり手同士が狭い範囲で直接結び合っているからだだろう。小さな単位で直接結び合っているからこそ、融通がきくし、無理もできる。そういう結び合いが社会のあちこちにあることが、実はたいへん重要なのではないだろうか。

2011年05月26日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<85歳からのメッセージ>

---

「85歳のメッセージ」は、作者の都合により、今回はお休みとさせていただきます。

原田勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、117号から発行人の変更に伴い、

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

-----  
次回 312号の締め切りは06月06日、発行は06月09日の予定です。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第311号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.05.26（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*